

### Ⅲ 今回のプロジェクトにより得られた知見

関東インフラプロジェクト・アーカイブス(No.5)では、全 8 件のプロジェクトをとりまとめています。それぞれのプロジェクトにおいて、コストや環境への配慮事項などが特記され、今後活かすべき知見が明らかにされています。

それぞれのプロジェクトの事例について、コスト・事業期間、環境への配慮、効果の視点で以下に整理し、知見について記載しました。

今後のプロジェクト実施にあたっては、これらの知見をふまえ、一層適切、確実、迅速にプロジェクトを推進していきたいと考えます。

#### 1. コスト・事業期間について

以下のとおり、コストや事業期間が変更となった事例がありました。

- ・コンテナターミナル改良整備について、護岸の構造に新工法を用いることによって、護岸整備の施工期間を 3 割短縮することができました。
- ・コンテナターミナル改良整備において、浚渫箇所の再調査により浚渫土量が減少し、事業費が低減しました。
- ・臨海道路整備において、新技術や新材料の採用等により整備コストが約 80 億円低減しました。
- ・空港再拡張整備において、漁業補償の調整に時間を要したことにより、整備期間が 1 年延伸しました。あわせて、施設計画の最適化や民間からの技術提案の採用等により、整備コストが約 500 億低減しました。

#### 【知見】

- ・今回のプロジェクトでは、設計上の工夫や新技術の導入により、コストの低減や工期の短縮が可能となった事例があったので、今後導入可能な事業に関しては参考にする必要があると考えられます。

#### 2. 環境への配慮について

以下のとおり景観・環境に配慮した事例がありました。

- ・合同庁舎の整備において、関係機関と連携し周辺景観との調和に配慮したことや、屋上緑化等の対策や自然エネルギーの活用等、景観や自然にも配慮した合同庁舎となりました。
- ・臨海道路整備において、東京ゲートブリッジの照明設備に関する景観検討を行ったことなどから新たな観光スポットとなりました。

## 【知見】

- ・合同庁舎を整備する上で景観や自然環境への配慮した知見は、今後の庁舎整備において役立つものと思われます。
- ・臨海道路整備の東京ゲートブリッジのように景観に配慮することによって、観光での来訪者が増えるという副次効果をもたらすこともあるので、事業によっては景観に配慮することの重要性がうかがえる結果となりました。

## 3. 効果について

以下のとおり、プロジェクトの実施により、コンテナ貨物取扱量が向上した事例や交通渋滞を緩和した事例、国内線や国際線の増加した事例などがありました。

- ・コンテナターミナル改良整備によって、横浜港の大型船の割合が増加しました。
- ・臨海道路整備によって、周辺道路の混雑度が3割緩和され、中央防波堤外側地区～新木場交差点間の所要時間が約4割短縮されました。
- ・空港拡張整備によって、国内線及び国際線の便数が増加し、国際線増加に伴い出入国者数が増加し、貨物取扱量は約28倍となりました。
- ・合同庁舎の整備について、利用者にアンケートをした結果概ね満足という結果でした。
- ・排水機場のポンプの集中監視室、自家発電の設置、ゴミ除去の自動化を導入することによって施設の信頼性が向上しました。

## 【知見】

- ・コンテナターミナル改良整備では、コンテナ船の大型化が進んでいることから、今後の動向を注視して、最新の動向に適応した改良整備を実施していく必要があるものと考えられます。また、便益の算定において、対象貨物量が大きく減少していることから、将来の貨物量の見通し精度を向上させていく必要があるものと考えられます。
- ・空港拡張整備では、滑走路等の整備による発着能力を増強することで国内外の発着便数、出入国者、貨物量等が増加し、期待した効果が十分に得られたことから、同種事業の良い参考事例になるものと考えられます。
- ・合同庁舎の整備では、概ね満足度が高い結果となったが、施設までのアクセスや施設内移動行き先に関して満足度が低かったため、今後はそういった点に配慮していく必要があるものと考えられます。
- ・排水機場の整備では、今後も信頼性が向上する知見として他の事例に反映させていく必要があると考えられます。

## 編集後記

今回のアーカイブス No5 は、関東地方整備局で取り組んできたコンテナターミナル改良整備、合同庁舎の整備など H27, H28 年度までに完了した多様なプロジェクトを掲載しています。

プロジェクトの実施にあたっては、環境に配慮した施工やコスト削減の実施等、様々な工夫がなされています。

本誌は、今後、新たなプロジェクトに取り組んでいく方の参考となるよう、このような様々なプロジェクトで得られたレッスン、考察などをとりまとめたものです。作成にあたっては一般の方にもわかりやすいよう表現や体裁に気をつけるとともに、シリーズであることがわかるよう表紙のデザインなどこれまでの要素を残しています。

本誌を発行するまでには、朝倉委員長をはじめ関東地方整備局事業評価監視委員会の皆様方に多大なるご指導を賜り、大変感謝しております。事務局一同、ご協力頂いた皆様に御礼申し上げます。

本誌が、今後のプロジェクトに大いに役立つことを期待するとともに、一般の方にもご覧いただき、関東地方整備局の取り組みについて理解がいつそう深まることを願っております。

(2018.3 関東インフラプロジェクト・アーカイブス (No.5) 編集担当事務局)

### 【関東インフラプロジェクト・アーカイブス (No.5) 編集担当部局】

港湾空港部港湾計画課  
営繕部調整課  
河川部河川計画課  
企画部企画課(事務局)

京浜港湾事務所  
東京港湾事務所  
東京空港整備事務所  
横浜営繕事務所  
東京第二営繕事務所  
甲武営繕事務所  
利根川上流河川事務所

## 関東インフラプロジェクト・アーカイブス

---

2018年3月 初版第一刷発行 (KPA2018-1)

編集・発行：国土交通省 関東地方整備局 企画部企画課  
TEL 048-601-3151 (代表)

---

